

イ 小動物臨床に携わる女性獣医師の現状 ～ 一開業獣医の経験から ～
にしき動物病院 院長 西木千絵

【はじめに】

私は八王子市で開業して20年になる。開業は娘が0歳10カ月の時であった。開業の挨拶に回った先で「主婦と子育ての合間に出来るほど甘い仕事ではない」と言われた。小動物臨床歴10年での開業であったからもちろんそれも承知の上であった。開業2年目に流産したが、3年目には息子を出産。子供の小さいうちは自分の時間などは持ちようもなく、ただ我武者羅に頑張ってきた。

この私の経験を今回お伝えすることで、3Kと言われてきた小動物臨床の現場が女性だけでなく全ての獣医師にとって、少しでも働きやすくなることを願う。

【小動物臨床現場の女性獣医師の利点】

2014年、第二次安倍内閣は「女性が活躍できる社会の実現」を掲げて当初5人の女性官僚を起用し、女性活躍担当相というポストも出来た。また、百貨店業界においても店長をはじめ女性管理職を増やす動きが出ている。女性目線で客の要望を考慮できる上、職場環境を女性従業員にとってより良い方向に改善できるとの判断である。

現在、獣医学生もほぼ男女同数となり、これからは女性獣医師も戦力として大いに期待される。また女性獣医師側も結婚・育児までの腰掛就職ではなく技術・資格を生かして社会貢献できるようになって欲しい。

動物病院に患畜を連れて来るのも家で看病するのも女性であることが多い。臨床現場に女性がいるということは、仕事だけでなく家事や育児を行いながら動物の面倒を見る女性の視点がわかり、これは男性獣医師にも貴重なアドバイスとなるのではないだろうか。

【就業環境に関する現況調査の結果分析】

このたび、我々女性獣医師支援特別委員会が行ったアンケートで小動物臨床獣医師に仕事上の不安を問う設問において、① 労働時間が長い、② 休暇が取り難い、③ 技術・体力に自信がないという回答が顕著に高かった。男性女性を問わず、産業動物臨床・公務員獣医師と比して圧倒的に高い比率であった。

これは小動物臨床現場が非常に厳しいものであり、従事者はかなりの負担を強いられていることに他ならない。我々、小動物臨床従事者は慣習に囚われず自身の為にも職場環境を改善する努力をしていくべきではないだろうか。

【妊娠・出産にかかる負担点】

私が八王子市近辺の女性獣医師に独自に行ったアンケート調査においては、家事・育児との両立を負担点にあげる人が多かった。家事はご主人と二分できても妊娠・出産は100%女性負担、育児も女性が負担する部分が大きい。

労働基準法でも妊産婦を働かせてはいけない期間が定められているし、男女雇用機会均等法でも妊婦に対する配慮が謳われているが、少人数で仕事をこなしている臨床現場ではなかなか守られていないのが実情である。

私は、第一子妊娠時は8カ月まで神奈川の動物病院に勤務していた。院長は妊娠中の私に配慮して下さり、レントゲン撮影や大型犬の診療からは外していただいたし、つわりがきつい時の早退なども認めて下さった。退職し出産までは臨床に携われないことが寂しく早く復帰したいと願っていたが、いざ育児が始まってみるとこちらの勤務可能時間と病院側の条件が合わずなかなか次の職が見つけれなかった。

現況調査でもあったように復帰までの時間が長引くほど不安感が大きくなる。そのため、この時期での開業を決意した。しかし子供が寝た時間を見計らった開業準備は寝不足の連続で、非常にきつかった。

開業後の第二子出産時は1日前まで仕事をしていた。出産後20日までは休みをいただいて、診察は代診の先生に頑張ってもらい、オペは同級生が手伝いに来てくれていた。この二人の先生には本当に感謝している。

【育児にかかる負担点】

妊娠・出産は1年のことだが、育児はそれから長い年月が要求される。

私は当時の主人の勤務地の近くで開業した。少しでも育児の負担を主人と分担したかったからである。しかし実際は思うようには行かなかった。まもなく主人は転勤になり1時間半近くの通勤を余儀なくされた。さらに息子が3歳になった時には離島へと転勤が決まった。保育ママさん、保育園、保育園時間終了後の二次保育の手配や、子供の病気や怪我での急な呼び出し、さらに骨折して3カ月も通園できない、全て一人に対応しなければならなかった。

そんな毎日でも病院に来る動物たちはおろそかにできない。私は女性ならではのきめ細かい看護をモットーにしてきた。1頭1頭の診療にも入院動物の看護にもかなりの時間を要することになる。自然と私の時間は仕事と育児で全て奪われることになった。

小学校に入学すると、運動会・学芸会・保護者会等学校行事への参加や学校のみならず学童保育所までも役員を引き受けなければならない。長期休みにはお弁当を作り、学童やおばあちゃんのいる友人宅に預ける。さらに習い事や塾に行かせることで少しでも子供が一人でいなければならない時間を減らす。でもそれはまた、送り迎えや塾にまでも夕食お弁当持ち込

み、発表会準備等の更なる負担が加算されることになって来るのだ。

中学・高校でもまだ学校行事や役員問題は継続する。我が家の場合は小学校時代によく調べもせずうっかり進学塾に入れてしまったため本人の希望で私立中学へ入学した。公立なら給食だったが中学から毎日お弁当が必要となった。さすがに私の負担が増え、それを見かねた娘が自分で朝起きて作るようになった。おかげで早起きが苦手な私の負担がかなり軽減された。

しかし私立中学に楽しそうに通う姉を見て、勉強嫌いなはずの息子まで受験を希望した。同じ中学には行けなかったが、高校生になった娘が息子と主人の分までお弁当を作ってくれるようになった。

実は数年前、スタッフ問題のストレスと息子の中学受験が重なり、私は脳梗塞を発症した。中学受験は2月初めの1週間にほぼ集中しているのだが、その間ずっと入院を余儀なくされた。主人と娘が代わる代わる息子の受験に付き添ってくれたが、息子の心情を考えるとつらかった。私自身も右手右足が思うように動かず、採血や手術も出来なくなるのではとの不安に苛まされる入院生活だった。幸い発症部位が良かったのと必死のリハビリが実を結び、今は日常生活に問題はない。担当医からは「二度目が起こったら保証はできない。そして一度目が来た人の90%に二度目は来る」と言われている。私の場合、これが気持ちを切り替える転機となった。友人と会う機会や楽しいと自分が思えることには積極的に出て行こうと心掛けている。今までは仕事で疲れているし友人と休みも合わない、と機会を作ろうとしていなかった。

今、育児との両立の真っ只中におられる先生方は、気持ちの余裕もなく育児を楽しむ事など出来ていないことも多いのではないだろうか。自分が仕事をすることで子供にも寂しい思いをさせている、と罪悪感を持つことさえある。親が頑張っている姿は必ず子供にも届くし、育児から開放される日は嫌でも来る。子供とも負担を分け合いながら、子供の成長を楽しむ余裕を持ちたい。

【家事・介護にかかる負担点】

八王子でのアンケート結果を見ると、既婚女性においては80%以上の家事を負担していると答えた女性が多かった。育児に関してはもっと女性の負担率が高い。もちろん女性からの回答であるから男性側はもう少しやっているのに、と思われることもあろう。女性の目線と男性の目線には違いがある。おそらく100%の仕事量に差があると思う。だから男性が50%家事を負担していると思えても実は女性側から見ればそれが20%である、と思ってしまう事も出てくるのではないだろうか。

私も仕事が休みの日には、たまった家事を一気にこなす。普通の洗濯や掃除は毎日やっけていても、シーツや毛布などの大物洗濯、お風呂の目地やガスレンジ、換気扇、冷蔵庫などの掃除等、普段出来ない仕事如山積み

なっている。犬もいつもは近所の散歩だけなので、晴れた日には広い公園にでも連れて行ってやりたい。季節の変わり目には衣替えや物置掃除、庭の手入れなどの仕事がある。週1回の定休しかない私には体力的には仕事の日よりきつかった。

しかし主人も島への単身赴任の成果か、戻ってから土日の夕食を担当してくれた。こうした家族の助けがありまた子供たちが成長したこともあって、最近では少し自分の時間が増え、昼休みに夕食の準備が出来た日など夜の勉強会や好きなテニスに行くことも出来るようになった。

幸い今の所、義母も両親も元気で暮らしているので仕事と介護を両立しなければならなかった経験は私にはないが、近い将来介護が必要になる家族が出るかもしれない。実際、要介護者を家族に持って小動物臨床の仕事をされていた先生は体力的にも精神的にもかなり疲れていらした。

しかし家事や介護は、他の家族や専門家に肩代わりしてもらえる分野である。一人で背負い込むことがないよう周囲の協力を得て両立を成功させていきたい。

【おわりに】

獣医師に限らず、結婚して家庭を持ち子供を育てながら仕事をしていく選択をする女性が増えている。反面、そのきつさから結婚をせず子供も持たない選択をする女性も増えている。

当院でも今まで3人の獣医師と1人のトリマーが、祖父母との同居なく家事・育児との両立を果たしている。しかし子供の急病などで他のスタッフへしわ寄せが行くこともある。数人の女性スタッフがチームを組んでシフトを補い合えたら理想的であろう。また短期間だけのいわば派遣獣医師も院長の息抜きやセミナー参加、スタッフ穴埋めにありがたい存在になると思われる。

日々命と向き合う臨床獣医師の仕事と家事・育児との両立は本当に大変である、と20年の生活を振り返り思う。私は今まで目の前にあるやらなければならないことをとにかく必死にこなしてきた。しかし全てをうまくやろうと頑張りすぎた、と反省している。

今只中におられる先生方、これからそこに突入する先生方には頑張ることより、上手に逃げる、そして楽しみを増やす努力をしていただきたい。男性方にもどうか周囲の女性への御協力をお願い致したい。

女性が輝いて活躍が出来るということは、男性方にも心地良く生活できる環境を生み出すことにつながる、そうあって欲しいと、切に願う。

小動物臨床に携わる 女性獣医師の現状



～ 一開業医の経験から ～



にしき動物病院
西木 千絵

1 就業環境等に関する現況調査結果から

(1) 仕事への不安を問う設問の回答

- ① 労働時間が長い
- ② 休暇が取り難い
- ③ 技術・体力に自信がない
- ④ 知識・経験不足
- ⑤ 妊娠中の仕事への不安
- ⑥ 仕事と家事の両立に不安
- ⑦ 勤務時間の融通性

① 労働時間が長い

職域	男性	女性
公務員	19.8%	22.5%
産業動物臨床	45.5%	39.7%
小動物臨床	66.5%	70.3%

② 休暇が取り難い

職域	男性	女性
公務員	22.9%	22.1%
産業動物臨床	47.9%	37.1%
小動物臨床	74.6%	74.0%

2 小動物臨床獣医師の妊娠・出産について

妊娠・出産は 100% 女性負担

つわり

通勤

立ち仕事

業務上の問題点

レントゲン撮影

大型犬診察

手術

etc.

2 小動物臨床獣医師の妊娠・出産について

○労働基準法

- * 産前42日(女性の請求があれば)・産後56日は妊産婦を働かせてはいけない

○男女雇用機会均等法

- * 妊娠中の女性に対し、会社は時短勤務や時差通勤等で配慮しなければならない

○マタニティハラスメント

- * 妊娠や出産を理由に違法な解雇や契約打ち切り・降格などの不利益な取扱いをする

3 育児にかかる負担

- * 育児には長い年月が要求される
- * 家事は二分できても 育児はほぼ女性負担

育メン？

保育園

- デメリット
- ①引き取り時間が早い
 - ②日曜保育が出来ない
 - ③仕事中でも熱発などで呼び出し
 - ④病気や怪我のとき預けられない
 - ⑤終了後の二次保育の手配
- メリット
- ①子供の社会性が身につく
 - ②親も解放される時間がある
 - ③仕事に携わる満足感

3 育児にかかる負担

小学校・学童

- ①運動会・学芸会・保護者会・個人面談など学校行事への参加
- ②子供一人当たり役員1回
- ③1～3(4)年生は学童保育所に入所
- ④長期休みにはお弁当や祖母出張
- ⑤習い事や塾に行かせて一人の時間を減らす

中学・高校

- ① 学校行事・役員問題は継続
- ②毎日のお弁当作り
- ③部活・塾などで帰宅時間調整

4 家事・介護にかかる負担

女性目線と男性目線の違い

男性が考える仕事量

50%

50%

女性が考える仕事量

20%

80%

5 臨床獣医師との両立

子供の受験

診療のストレス

多忙

脳梗塞

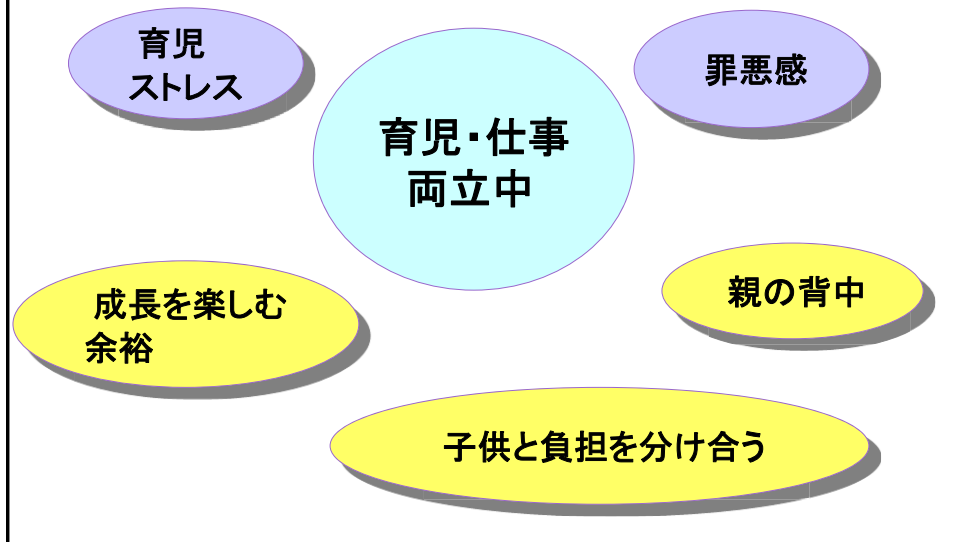
スタッフ問題

機会を作ろうとしない
友人達と休みが合わない
仕事で疲れている



楽しいと思える時間を持つ
友人達との語らい
リハビリ兼ねたテニス

5 臨床獣医師との両立



6 女性獣医師による動物病院

〇にしき動物病院(東京都八王子市)

臨床歴10年で1995年に開業

獣医師3名・看護師兼トリマー3名・トリマー1名

スタッフ全員女性

- ・育児・家事との両立に配慮
- ・皆でできるだけ早く仕事が終わるよう努力
- ・残業手術は最低限の人数で、交代制



にしき動物病院の診療体制

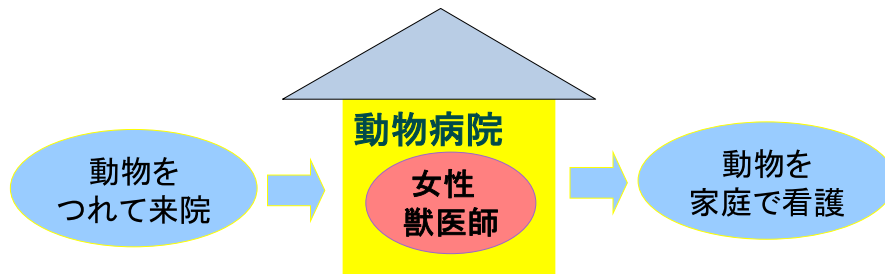
午前診療		手術・検査・昼休憩		午後診療	
9:30～12:30		12:30～15:30		15:30～18:30	
曜日		獣医師		看護師 兼トリマー	
月曜		院長・獣医師 (～18:00)		2名	
火曜		院長・獣医師 (～18:00)		3名	
水曜		副院長・獣医師(～17:00)・院長		2名	
木曜(休診日)		副院長			
金曜		院長・副院長・獣医師(～18:00)		2名	
土曜		院長・副院長		3名	
日曜		院長・副院長		3名	



にしき動物病院の
女性スタッフ



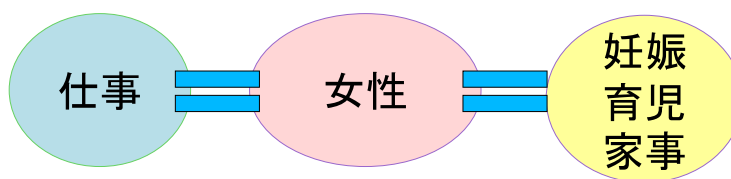
女性獣医師による動物病院のメリット



仕事・家事・育児を行いながら動物の世話をする
女性の視点がわかる

(男性獣医師にも貴重なアドバイス)

女性獣医師による動物病院の課題



にき動物病院の課題

- ① 育児中は土日勤務が難しい
- ② 人件費がかかる
- ③ 院長に夜間などの負担が大きい
- ④ 欠員補充が困難

7 女性獣医師が働きやすい体制づくり

女性スタッフがシフトを補い合う

⇒ 一つのポストに対し2~3人の女性スタッフが担当する

派遣獣医師の登録

⇒ 短期間の派遣
院長の息抜き・セミナー参加・スタッフ穴埋め

夜間診療施設の充実

8 まとめ

小動物臨床獣医師における就業環境等に関する調査結果

- ①労働時間が長い(男性67% 女性70%)
- ②休暇が取り難い(男性75% 女性74%)



小動物臨床獣医師は男女とも負担が大きい



慣習に囚われず
職場環境を改善する努力が必要

